

京都観光地調査 報告書

～外国人から見た京都はどう映る？～

グループメンバー

経済学部	サービスマネジメント	岸本 修平
経営学部	サービスマネジメント	田阪 豊輝
経営学部	サービスマネジメント	乃村 紘平
経営学部	サービスマネジメント	松田慎太郎

0、目次

- 1・・・はじめに
- 2・・・調査日・調査場所
- 3・・・サンプルについて
- 4・・・調査結果
- 5・・・まとめ

1、はじめに　－調査目的－

今回、私たちは京都の観光地調査というテーマでアンケート調査を実施した。このテーマを選択した理由は、今日京都は国際観光都市として、日本は言わずもがな、世界中でも“KYOTO”と名を馳せている。日本＝京都というひとつの認識があるのも事実である。

しかし、ほぼ行政主導で進められてきた観光政策に問題点はないのだろうか、と考えてみたときに、完璧である、と自信を持って答えることはできないだろう。そこで観光客から京都の問題点を問うとともに、日本・京都のイメージではどのような違いがあるのか、またこの他にも様々な比較内容を駆使して、最終的に私たちの提言を出したいと思う。

また今回のアンケートでは外国人のみに絞った調査となった。日本人から見た結果ではなく、世界各国からきた外国人の意見を採りたかったためである。

2、調査日・調査場所

- 6月28日（水）　東山ユースホテル
- 7月5日（水）　　宇多野ユースホテル
- 7月6日（木）　　街頭での調査＜京都タワー下＞
- 7月8日（土）　　東山ユースホテル・宇多野ユースホテル（委託調査回収）

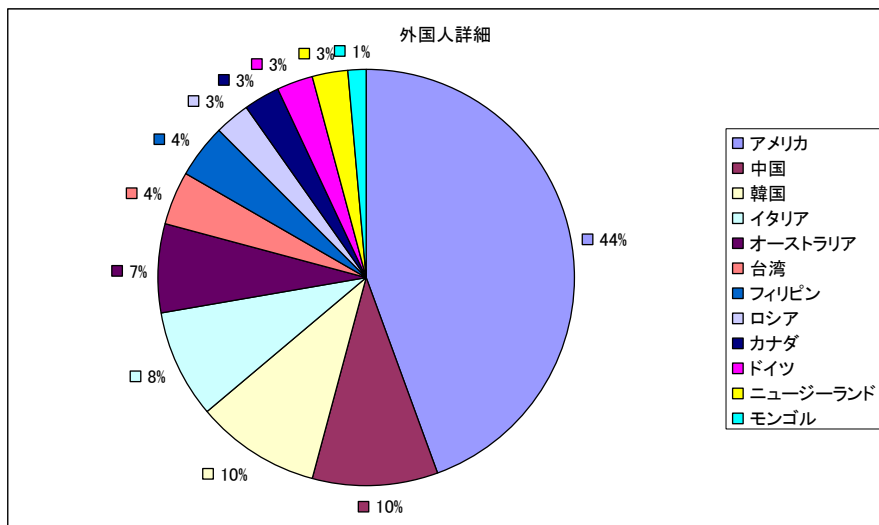
3、サンプルについて

- アンケート対象者：京都に来ている外国人の方　74名
- 有効回答数　　　：72部
- 調査方法　　　　：外国人の方にその場で回答していただいた。
選択式、記述式の設問を用意

4、調査結果

それでは各項目について詳しく見ていこうと思う。

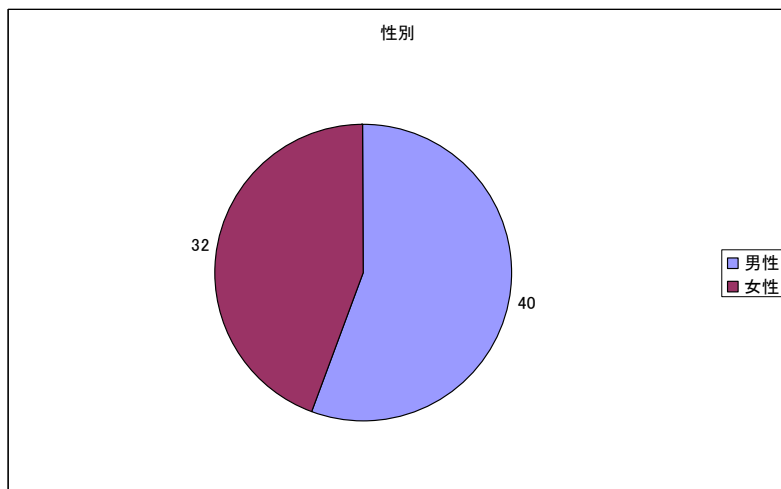
各外国人割合について



現在、政府ではアジア地域を中心とした、インバウンド観光政策（中国、台湾などと交流を深め、日本に来てもらうための働きかけ）や、VISIT JAPAN 政策を行っており、この結果私たちはアジアからの観光客が確実に多いと考え仮説を立てた。

しかし、グラフを見ると、アメリカ人が 44% と約半数を占めている。アジア系の外国人は中国、韓国、台湾、フィリピン、モンゴルの方を含め、29% しかなかったという結果をふまえ私たちの仮説とは食い違っていた。調査上の私たちのミスとして、外見だけを見ると、アメリカ人や、西洋の人達は外国人とすぐ見分けることができたが、アジア人を見分けるのは実際喋ってみなければわからないという点があった。それでアンケートするタイミングを逃していた可能性も否めない。また、同じ国籍のグループで観光にこられた方が多く、国籍がある程度偏ったことも反省点である。結果としてはアメリカ人が大多数を占めることになった。

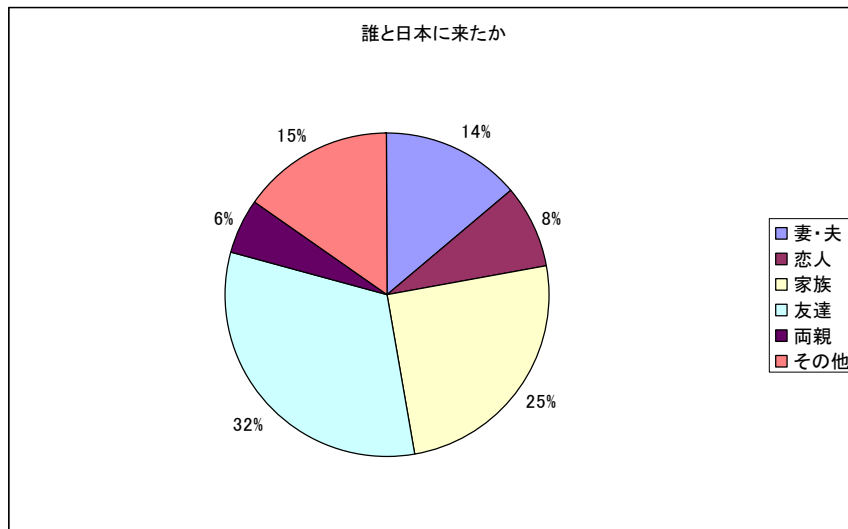
性別



性別は、有効回答数のうち、72 人中、男性が 40 人。女性が 32 人であった。やや男性の方が多い結

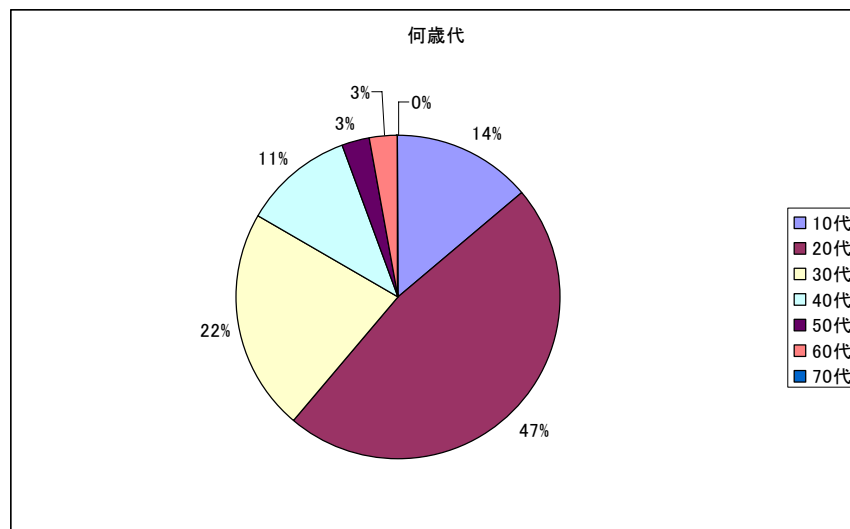
果となった。

日本に誰ときたか



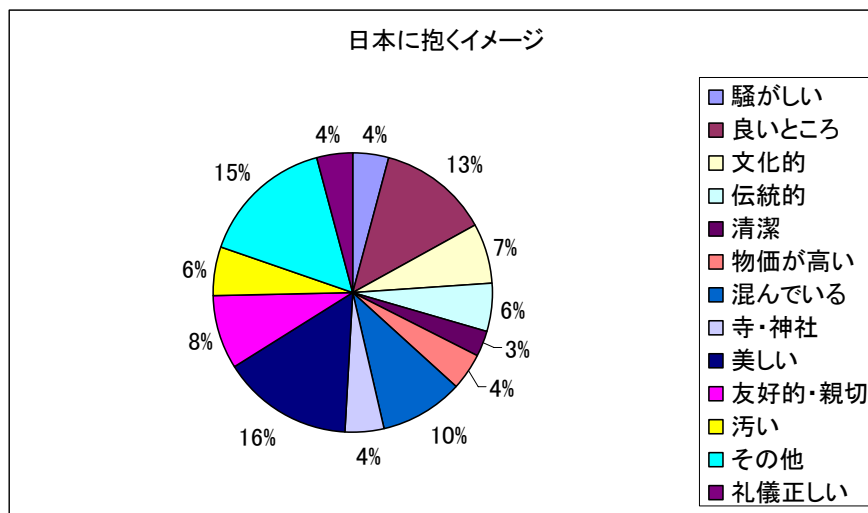
友達とぶらり遊びにきたというケースが多かった。3項目との相関関係で見ると、10代・20代の若者が男の友達と一緒に来るケースが多いことがわかった。家族も大きい割合で、これは30代・40代の人たちによく見られた傾向であった。その他の内訳としてほぼ9割、一人旅をしているというものが占めた。

何歳代



約60%近くを若年層（10・20代）が占めた。日本は若者に愛される町なのだろうか。30代以上は合わせて40%を占めており、両者にとって魅力あるものとは何なのかも探っていきたい。

日本に対して抱くイメージ



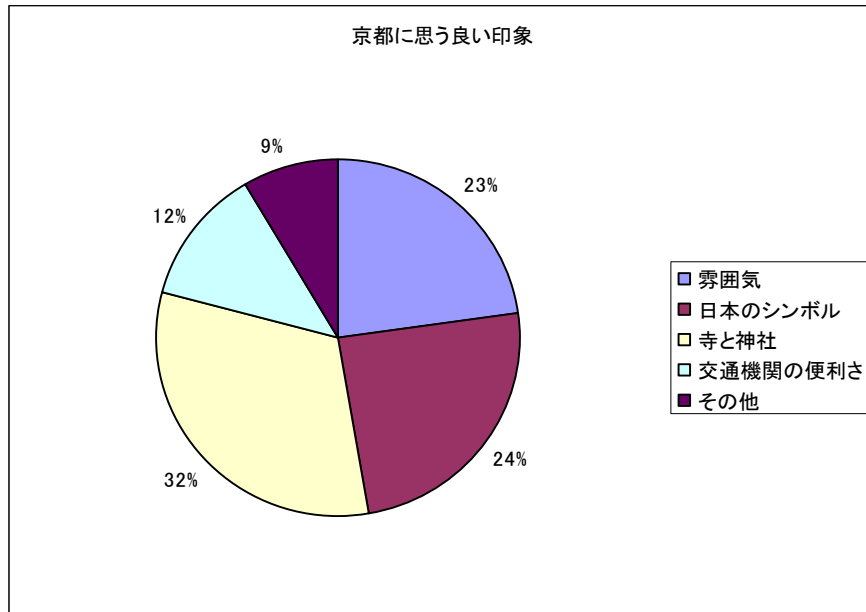
冒頭のはじめに、でも述べたが、京都は国際観光都市として、名を馳せているが、外国人の方は京都に行くというよりは、日本に行っているという感覚の方が強いと思う。日本＝京都のイメージの画一化がなされているように思う。そのため外国人が日本に抱くイメージを項目に加えた。私たちの仮説としては、個人個人が思うことなのでアンケートは、日本全体のイメージ（美しい、安全 etc...）神社や寺など日本の歴史に関する回答がでけると予想した。

結果は仮説と似ている点が多かった。汚い。騒がしい、物価が高い、混んでいると答える人もいれば、美しい、良いところと答える人もいた。対称的なことがグラフを占める中、寺や、神社、歴史など日本の文化などに関するものもグラフに多くみられた。その他には気候（蒸し暑い）やおたくというキーワードがでてきた。全体的にみると日本はいい印象で見られていることがわかった。

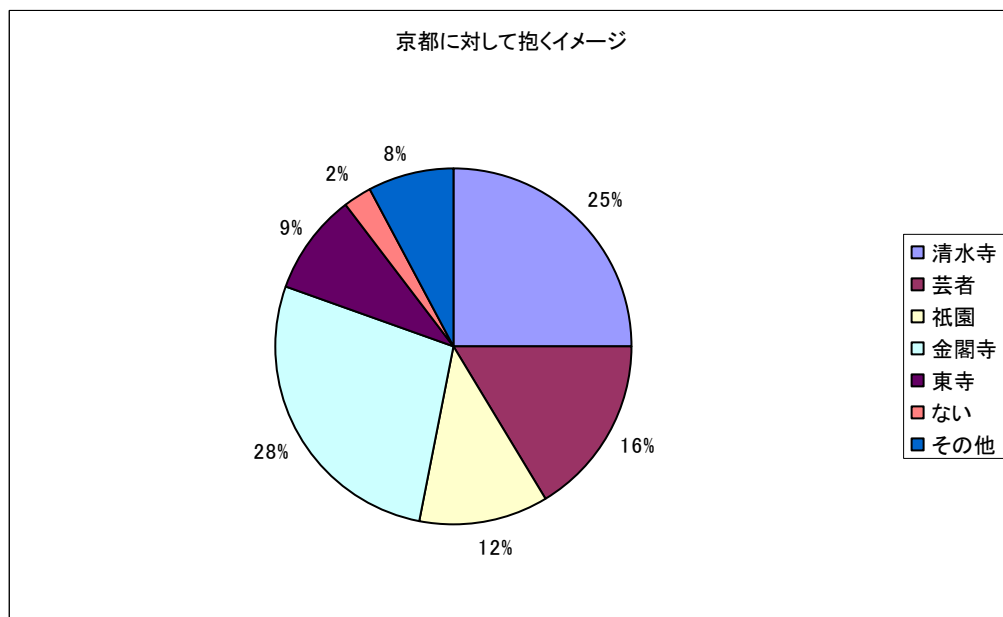
京都について

文頭に「日本といえば、京都」と思い浮かぶことが少なくない外国人に京都について良い点悪い点を具体的に問い、京都に対して何を必要としているかを、調べてみた。

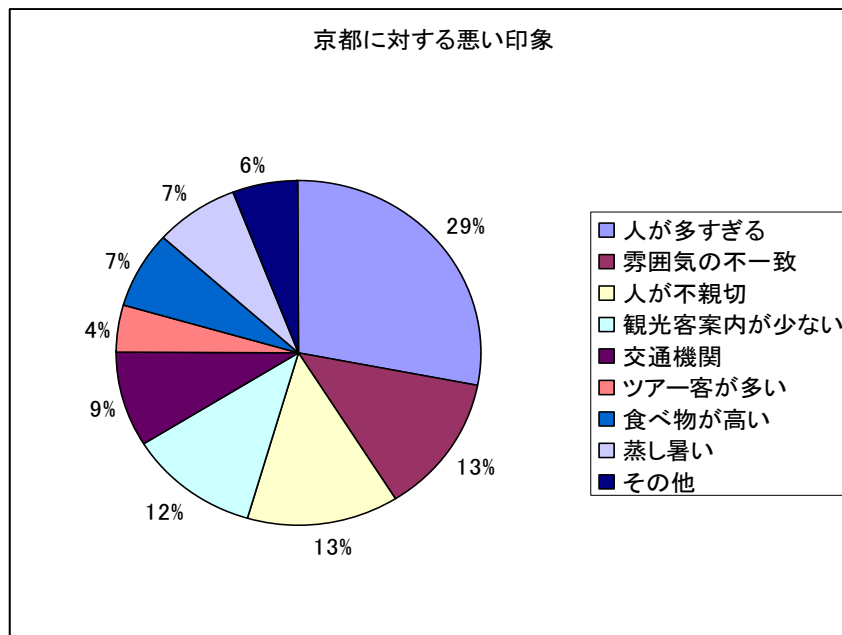
調査結果を述べる前に、私たちの仮説を述べたい。それは、清水寺、金閣寺、をはじめ数々の世界遺産がある京都で、外国人は京都の良いものとして思い浮かぶものは？と問われ、「寺や神社」という回答がアンケートの上位を占めると仮説を置いた。寺、神社という回答が多いということは京都の伝統的で古典的な風土に興味を持っている外国人が多いのではないかと考えたからである。また逆の観点から、悪い点は何かということに関しても聞いてみた。ここでの仮説は、外国人向け、特に中国語や韓国語の看板の少なさをはじめ、観光都市として外国人を招く準備というものがまだ不十分であり、外国人観光客の利便性という点で疑問があるのではないかと考えた。



上の図にあるように結果として、一番多い割合で「寺、神社」と回答した外国人が多かった。寺、神社は日本に特有のものであり、物珍しさというものを感ぜずにはいられないのであろう。この点に関しては私達の仮説どおりの結果である。「雰囲気」の中には、「古き良き京都の情景」や「伝統的な魅力」と回答もあった。ここでもう一つグラフを見てほしい。



京都の良い印象として「寺や神社」が一番多い割合で占めていることがわかったが、「京都のイメージとして思い浮かぶものは？」という問いに関しても、同じように上位二つが金閣寺、清水寺になっていることから、外国人が寺や神社に興味を持っていることも補足として述べておく。



次に悪い点を見る。結果が上のグラフであるが、仮説で述べた観光の利便性に欠けるという点に合致している。その中でも、世界遺産の清水寺に訪れたところ、母国語を話せる人がいないために寺がどのようなにつくられたかなどの質問ができなかったという回答がみられた。そして回答の約三分の一を占めたのは、「人の多さ」という点であった。次に「雰囲気の不一致」という回答があった。中には、「Americanized」という回答や、「思っていたよりも騒がしい」との回答が見られた。

ここで京都の良い点と悪い点を比較して、外国人は京都に何を求めているかと考えると、近代的なビルや発展した京都ではなく、伝統的で古風な京都を外国人は必要としているのではないかと、つまり京都の価値は、趣深い京都としてイメージであるのではないかと考えた。

4 まとめ

これからますます国際化が進み、国際交流も活発化する。その中で日本の良さをPRし、観光客を呼び込み、日本の魅力を知ってもらうことができるか、というのが重要である。

若者は行動力もあり、留学や一人旅、友達との旅行など様々な機会に応じて来日してくる。しかし、これからは年配の方にもっと注目していきたいと考えている。

例えば、まず財力が違う。みやげ物も大量に買われ、ホテルなどにもこだわるだろうと思う。そこで外貨の獲得がなされ、地域経済が潤うことにもなる。また、これからは高齢社会化のスピードがますます加速していくと考えられる。合わせて若者の減少も加速するだろう。そこで余暇が増大し、さらに数が増える年配の方にある程度絞った戦略を練る必要があると感じる。

日本に植えつけた今の良いイメージと京都に対するイメージとのいい意味での統一化、切り離すところは切り離していくなどの対策も必要だろう。京都に対する不満の項で挙がっていた、観光案内板・観光案内ボランティアの増員は急務であろう。観光案内板はやはり皆が注目するものである、それ自体の魅力度もアップせねばならないだろう。また何カ国語もしゃべれるガイドも必要ではあるが、それよりも詳しく京都と日本を歴史になぞらえ、伝承できるべき人材が必要となってくるだろう。

少数意見ではあるが、“Americanized”という答えがあった。急激な西洋化によって、ここまでの経

済大国に成長した日本であるが、古きよき日本らしさが未だ残る京都は大切にされるべきである。

アンケート採集では結局74部しか回収できなかった。ユースホステルという場所では外国人が多く泊まるだろうと予測して依頼したが、意外にも少なかった。それよりも私たちの語学力のなさを痛感させられた。かろうじてアンケートをしてくださいという話ができるだけで、会話ができないことに歯がゆさも感じた。しかし外国人の方は優しく、ほとんどしゃべれない私達の意図をちゃんと汲み取ってくださり、文句も言わず、やってくださった。中には覚えた日本語で話しかけてくださった方もいた。このことから、異文化交流というものは自分たちにとってプラスになるものになった。

アンケートというと簡単なものではないのか、と鷹をくくっていた最初の頃はなんだったのだろうと今になって思う。多角的な分析において、結論を導くという、煩雑な作業の繰り返しであった。フィールドワークで実際に外に飛び出すこの授業ではいい経験をつめたと思う。